

編集後記

酷しい残暑に堪えているうちに、いつの間にか朝夕は涼しい秋の風の気配を感じるようになり、季節の移りかわりの早さを思い知らされる。

最近、工学畑との提携が急速に進み、集積回路の進歩による機器の小型化、それを駆使した各種マイコンの発達、普及等により、従来考えることもできなかった高性能の電子機器が次々に開発されつつある。そこで、今回は、各領域におけるリハビリテーション機器について、その現在の進歩の状況を、将来の展望まで含めて紹介していただいた。

まず、赤津氏は、超重度頸損者の電動車椅子とリフターの現況と問題点について述べ、ことにリフターの国産化の必要性を説いた。川村氏らは、義肢の感覚フィードバック装置開発の現況を述べ、ことに義足の感覚フィードバックの重要性を強調し、これによって義足ははじめて「神経の通ったものになる」と力説した。小柳氏は、最近の電子工学の進歩から始まり、視覚代行機器、ことにオブタコンについて解説し、将来の展望を述べた。山

下氏は、「聴覚・言語障害に対するリハビリテーション機器」と題して、総論的に論述した後に、発声発語訓練器の開発の現況について論述した。畠山氏は、四肢完全麻痺患者に対する環境制御装置を改良し、マイコンを内蔵させることによって多数の動作が可能となるシステムの開発に成功した。

以上のような電子工学的アプローチは、今後リハビリテーションの領域でも新しい時代を拓いてゆくものと思われるが、患者が対象である限りソフトウェアの開発がこれに伴わなければ意味がないことはもちろんである。

その他、講座は二つともたまたま脳性麻痺の問題となったが、何れも価値の高い論文であり、松尾氏らの「手の使用様式の分類」、二木氏らの「米、カナダのリハの統計」もまた充実した論文であった。

最後に、初山氏の巻頭言の「脇役に徹するところ」は、リハビリテーション従事者として他山の石とすべき名言であると感銘を深くした。(土屋 弘吉)

編集顧問

天児 民和
大島 良雄
小池 文英
杉山 尚
砂原 茂一
津山 直一
水野 祥太郎

編集委員

明石 謙
上田 敏
大井 淑雄
大川 嗣雄
千野 直一
土屋 弘吉
横山 巖
編集同人

赤津 隆
今田 拓
今村 哲夫
江口 壽榮夫
萩島 秀男
小野 啓郎
加倉井 周一
河邨 文一郎
五味 重春
斉藤 正也
沢村 誠志
武智 秀夫
永井 昌夫
中村 隆一
野島 元雄
間 得之
長谷川 恒雄
橋倉 一裕
福井 因彦
三島 博信
渡辺 英夫
飯田 卯之吉
田中 照子
小川 孟
野村 飲
小島 蓉子
笹沼 澄子
鈴木 明子
高田 玲子
林 玉子
土屋 和夫
松村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第11号)

特集 性的問題

男性性機能の生理……………福島労災病院 石井 延久
性と心理……………慶応大 小此木 啓吾
脊損者の性機能……………神奈川リハセンター 宮崎 一興
脊損者の性生活とカウンセリング……………慶応大 蜂須賀研二・他
老人の性 (Impotence を中心に)……………東邦大 白井 将文
老人の性 (実態調査から)……………中野保健所 大工原 秀子

講座 リハビリテーションにおける治療 (11)

(二分脊椎児の膀胱訓練)……………星ヶ丘厚生年金病院 中新井 邦夫
脳性麻痺の周辺 (5) (未熟児)……………日大 馬場 一夫・他

資料 統計でみるアメリカ・カナダのリハビリテーション・

障害者福祉 (アメリカ・下)……………代々木病院 二木 立・他